

亀田医療大学 年報

2016（平成28）年度

KAMEDA COLLEGE OF HEALTH SCIENCES

はじめに

亀田医療大学は本年3月に第2期生77名が卒業しました。本学卒業生は1期生と合わせてもまだ150名程度しかおりませんが、着実に社会貢献への道を歩み始めています。そして今年度は6期生として83名の新入生を迎えることができました。ここ数年来、県内には多くの看護大学・学部が新設・増設され続けています。18歳人口の減少とも相まって多くの大学が学生募集に四苦八苦する中、本学が入学定員を充足できたことは非常にありがたいことです。もちろん過信・油断は禁物ですが、これも全国有数の亀田メディカルセンターと一体化した本学独自の臨地実習重視の看護教育に対する評価が定着しつつあるものと理解しています。

さて大変遅ればせながら、2016（平成28）年度年報ができあがりました。本年度は日本高等教育評価機構の規定に基づく平成29年度自己点検評価書をすでに作成したため今迄とは異なり、教員情報と各委員会活動報告のみとなっております。建学の精神・大学基本理念、本学の特色、自己評価等は自己点検評価書を参照下さい。以前は大学教員の任務は教育と研究が主体でしたが、昨今は大学教員も積極的に大学運営、委員会業務、学生募集等に参画を求められ、授業・実習、学務の他に研究時間を作り、業績を上げることは物理的にも大変な努力が必要です。しかしそれを口実に学会発表、論文執筆を行わなければ、本学のような少人数の単科大学はいずれ大規模総合大学に飲み込まれ、消滅してしまうでしょう。しばらく頓挫していた大学院設置準備も平成31年4月開設を目指して恵美須副学長を中心に再開しました。また大学総合研究所は亀田メディカルセンターにおける臨床研究支援体制を充実しつつあります。多忙な若手教員が研究を行いやすい環境づくり、サポート体制をこれからも目指していきたいと思えます。

平成30年3月

鉄蕉館亀田医療大学学長／総合研究所所長
橋本 裕二

目次

1. 教員情報	1
2. 委員会活動等	28
3. 教職員一覧	55

※ 平成 28 年度年報については、昨年度より内容を節略。その他学内の情報については、「平成 29 年度自己点検評価書」を参考

1. 教員情報

橋本 裕二

原著論文等

- Mizukami A.; Matsue Y.; Naruse Y.; Kowase S.; Kurosaki K.; Suzuki M.; Matsumura A.; Nogami A.; Aonuma K.; Hashimoto Y. Kaplan-Meier survival analysis and Cox regression analyses regarding right ventricular septal pacing: Data from Japanese pacemaker cohort. *Data Brief*. 2016 Aug 3;8:1303-7. doi: 10.1016/j.dib.2016.07.058. eCollection 2016 Sep.
- Mizukami A.; Matsue Y.; Naruse Y.; Kowase S.; Kurosaki K.; Suzuki M.; Matsumura A.; Nogami A.; Aonuma K.; Hashimoto Y. Implications of right ventricular septal pacing for medium-term prognosis: Propensity-matched analysis. *Int J Cardiol*. 2016 Oct 1;220:214-8. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.06.250. Epub 2016 Jun 28.
- Mizukami A.; Suzuki M.; Nakamura R.; Kuroda S.; Ono M.; Matsue Y.; Iwatsuka R.; Yonetsu T.; Matsumura A.; Hashimoto Y. Histological examination of the right atrial appendage after failed catheter ablation for focal atrial tachycardia complicated by cardiogenic shock in a post-partum patient. *J Arrhythm*. 2016 Jun;32(3):227-9. doi: 10.1016/j.joa.2016.01.001. Epub 2016 Feb 3.
- Suzuki M.; Nagahori W.; Mizukami A.; Matsumura A.; Hashimoto Y. A multicenter observational study of the effectiveness of antiarrhythmic agents in ventricular arrhythmias: A propensity-score adjusted analysis. *J Arrhythm*. 2016 Jun;32(3):186-90. doi: 10.1016/j.joa.2016.01.004. Epub 2016 Feb 10.
- Yoshioka K.; Matsue Y.; Kagiya N.; Yoshida K.; Kume T.; Okura H.; Suzuki M.; Matsumura A.; Yoshida K.; Hashimoto Y. Recovery from hyponatremia in acute phase is associated with better in-hospital mortality rate in acute heart failure syndrome. *J Cardiol*. 2016 May;67(5):406-11. doi: 10.1016/j.jjcc.2015.12.004. Epub 2016 Mar 9.
- Hoshino M.; Yonetsu T.; Mizukami A.; Matsuda Y.; Yoshioka K.; Sudo Y.; Ninomiya R.; Soeda M.; Kuroda S.; Ono M.; Iwatsuka R.; Suzuki M.; Matsumura A.; Hashimoto Y. Moderate vasomotor response to acetylcholine provocation test as an indicator of long-term prognosis. *Heart Vessels*. 2016 Dec;31(12):1943-1949. Epub 2016 Mar 11.
- Matsue Y.; Shiraishi A.; Kagiya N.; Yoshida K.; Kume T.; Okura H.; Suzuki M.; Matsumura A.; Yoshida K.; Hashimoto Y. Renal function on admission modifies prognostic impact of diuretics in acute heart failure: a propensity score matched and interaction analysis. *Heart Vessels*. 2016 Dec;31(12):1980-1987. Epub 2016 Feb 18.

研究助成及び研究活動報告

- 多施設共同調査研究. JAPANESE HEART FAILURE SYNDROME WITH PRESERVED EJECTION FRACTION STUDY (JASPER 研究) .

学会等社会貢献

- ・ 学校法人鉄蕉館副理事長・評議員
- ・ 日本循環器学会関東甲信越地方会評議員
- ・ 日本冠疾患学会評議員
- ・ 鴨川版 CCRC 推進会議議長
- ・ 千葉県鴨川市体育協会顧問

足立 智孝

著書

- ・ Adachi, Toshitaka. “Medical Humanities”. Encyclopedia of Global Bioethics. Hank ten Have ed. Springer, 2016.
- ・ 足立智孝. “アドバンス・ケア・プランニングの倫理的意義とその課題”. 本人の意思を尊重する意思決定支援: 事例で学ぶアドバンス・ケア・プランニング. 西川満則, 長江弘子, 横江由理子編. 南山堂, 2016, p. 26-32.
- ・ 足立智孝. “ニュルンベルク綱領の意義”. English for Students Pharmacists 1 薬学生のための英語 1. 日本薬学英语研究会編. 成美堂, 2017, p. 124.

原著論文等

- ・ 足立智孝. エンドオブライフにおける倫理的意思決定—バイオエシックス的観点からの展開について. 看護技術. 2016. vol.62, no.12, p. 31-36.
- ・ 足立智孝. 患者はなぜ語るのか—闘病記の利他性に注目して. モラロジー研究. 2016. no.78, p. 37-53.

学会発表

- ・ 佐藤真由美, 佐藤禮子, 足立智孝. 婦人科がん術後リンパ浮腫予防を目的とした電話相談内容分析—就労支援サポートプログラム考案に向けて. 日本看護倫理学会, 京都テルサ会館. 2016.
- ・ 足立智孝. 倫理的にマインドフルな病院づくり—病院倫理制度の創造的破壊に向けた倫理学と経営学からの問題提起. 日本医療・病院管理学会, 東京医科歯科大学. 2016.
- ・ 足立朋子, 足立智孝. 亀田総合病院における研究倫理教育の取組み. 研究倫理を語る会, 東京医科歯科大学. 2016.

研究助成及び研究活動報告

- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 A) 研究課題番号 15H02586, 2015-2019. 研究課題名「市民と専門職で協働する日本型対話促進 ACP 介入モデルの構築とエビデンスの確立」. 長江弘子 (研究代表者), 足立智孝 (研究分担者), 森田達也 (研究分担者), 宮下光令 (研究分担者), 田村恵子 (研究分担者), 酒井昌子 (研究分担者), 片山陽子 (研究分担者), 乗越千枝 (研究分担者) 竹ノ内沙弥香 (研究分担者), 谷垣静子 (研究分担者).
- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究課題番号 16K12316, 2016-2018. 研究課題名「婦人科がん術後リンパ浮腫予防のセルフマネジメントを促す包括支援プログラム研究」. 佐藤真由美 (研究代表者), 足立智孝 (研究分担者), 高橋道明 (研究分担者), 足立朋子 (研究分担者).

学会等社会貢献

- ・日本生命倫理学会 評議員
- ・日本看護倫理学会 評議員
- ・地球システム・倫理学会 評議員
- ・日本エンドオブライフケア学会 理事
- ・東京女子医科大学大学院看護学研究科「人間学」(21.25 時間)
- ・星薬科大学薬学部「医療倫理学」(15 時間)
- ・昭和薬科大学薬学部「ヒューマニズム：生と死を考える」(6 時間)
- ・「虐待について考える」長野市民病院医療倫理講演会, 長野市民病院, 2016. 9. 27.
- ・「ライフデザインノートを書いてみよう」鴨川市健康推進課高齢者健康教室, 亀田医療大学, 2016. 9. 30.
- ・「研究倫理—基礎講習 1」医療法人鉄蕉会亀田総合病院研究倫理講習, 医療法人鉄蕉会亀田総合病院, , 2016. 10. 12.
- ・「研究倫理—更新講習 2」医療法人鉄蕉会亀田総合病院研究倫理講習, 医療法人鉄蕉会亀田総合病院, 2016. 11. 30.
- ・「虐待と倫理」社会福祉法人太陽会倫理研修会, めぐみの里, 2016. 12. 1.
- ・「研究倫理—基礎講習 4」医療法人鉄蕉会亀田総合病院研究倫理講習, 医療法人鉄蕉会亀田総合病院, 2017. 1. 10.
- ・「ライフデザインノートを書いてみよう」房総がんケアフォーラム, 亀田総合病院, 2017. 1. 14.
- ・『気づき』からはじめる臨床倫理—治療方針をめぐるよりよい意思決定のために」討論司会日本医学哲学・倫理学会公開講座, 御茶ノ水ソラシティ, 2017. 1. 22.
- ・「研究倫理—更新講習 3」医療法人鉄蕉会亀田総合病院研究倫理講習, 医療法人鉄蕉会亀田総合病院, 2017. 2. 16.
- ・「文学から考えるエンド・オブ・ライフ」平成 28 年度千葉市生涯学習センター市民講座：話すことで気づくエンド・オブ・ライフ～みんなで考えよう～, 千葉市生涯学習センター, 2017. 3. 12.
- ・医療法人鉄蕉会 倫理問題検討委員会委員
- ・医療法人鉄蕉会 臨床研究審査委員会委員
- ・日本生命倫理学会 総務委員会委員
- ・日本医学哲学倫理学会 国際学術交流委員会委員, 教育委員会委員
- ・日本看護倫理学会 編集委員会委員
- ・日本エンドオブライフケア学会 学会活動推進委員会委員, 意思決定プロセスに関する教育・研究・実践委員会副委員長
- ・RD クリニック特定認定再生医療等委員会副委員長
- ・RD クリニック認定再生医療等委員会委員

惠美須 文枝

学会等社会貢献

- ・日本看護学教育学会 専任査読員
- ・日本保健科学学会 評議員
- ・日本助産評価機構 評議員
- ・日本私立看護系大学協会 理事
- ・子育てボランティア団体「さんごサポネット in 荒川」主宰
- ・全国助産師教育協議会研究研修センター運営委員
- ・荒川区 子ども・子育て会議 委員
- ・学校法人鉄蕉館理事・評議員
- ・助産教育課程Ⅰ・Ⅱ（助産師教育カリキュラムの構築）：20時間 全国助産師教育協議会研究研修センター研修会 講師)2017.2.3(大阪) .
- ・看護教育について 亀田医療大学平成 28 年度臨床指導者研修会 講師 2016.6（鴨川市） .

新田 静江

学会発表

- ・横内理乃, 新田静江: 認知症高齢者の女性介護者における介護代替者の有無と介護負担感・精神的健康度の関連, 日本老年看護学会第 21 回学術集会, 2016.7. 大宮市.
- ・松丸直美, 新田静江, 小坂玲音, 平川弘一, 青木佳子: いっぺさ! 鴨川シアター」報告, 第 8 回南房総リハビリテーション・ケア文化祭, 2016.10. 館山市.

研究助成及び研究活動報告

- ・共同研究「薬剤に関するパンフレットと DVD を活用した啓発プログラムの在宅高齢者における効果」について. 研究倫理審査の承認を得て(2016.11)、1-3 月にデータ収集終了. 新田静江, 秋葉久典, 杉田登子, 平山香代子, 真野響子, 栗栖千幸, 小坂玲音.

学会等社会貢献

- ・日本看護科学学会 専任査読者 2003.10～
- ・山梨県高齢者権利擁護等推進部会 部会長 2011～
- ・山梨大学大学院医工農学総合研究部 非常勤講師 2013～
- ・鴨川地域医療連携会議委員 2013～
- ・亀田総合病院地域連携室会議委員 2013～
- ・鴨川市社会福祉協議会 地域福祉活動計画策定委員 2015～
- ・千葉県立長狭高校医療福祉コース出張講義 講師「めざせ 100 歳の私!」 2016.6
- ・安房地区公民館連絡協議会 平成 28 年度第 1 回講義「安房の地で行う看護の大学教育」 2016.6
- ・亀田医療大学実習指導者研修会 講師「実習指導の原理」 2016.7
- ・鴨川市しらかば会長狭支部研修会 講師「熱中症と窒息」 2016.7
- ・鴨川市介護サービス従事者基礎研修 講師「介護従事者に必要な医療知識」 2016.8
- ・山梨県高齢者権利擁護等推進員養成研修会 講師 2016.7, 2016.9
- ・千葉県立大原高校出張講義「看護師が身体を診る技法: 視診、触診、打診、聴診」 2016.12
- ・山梨県高齢者権利擁護等事例検討会 講師 2016.12
- ・第 7 回地域医療連携交流会 講師「地域包括ケアシステムにおける「自助」「互助」「共助」「公助」推進への専門職の役割」 2017.2
- ・鴨川市通所サービス事業所連絡協議会研修会 講師「連携ノート活用による家族支援と事業者間連携」 2017.3

原田 光子

原著論文等

- ・平尾由美子, 原田光子, 山田志枝他 (2017). 病棟業務から訪問看護業務に移行した直後に看護師が感じる戸惑い・困難. 千葉県立保健医療大学紀要. 8巻, 1号, 69-79.

学会発表

- ・平尾由美子, 原田光子, 山田志枝他 (2016). 病棟勤務等から訪問看護ステーション業務に移行した直後に看護師が感じる戸惑い・困難とその経時的変化<第1報>. 第21回日本在宅ケア学会学術集会, 東京都.
- ・原田光子, 中江秀幸, 松丸直美他 (2016). 在宅におけるパーキンソン病療養者の看護職に関する服薬管理プログラム. 第21回日本在宅ケア学会学術集会, 東京都.
- ・松丸直美, 原田光子, 富安真理他 (2016). 在宅におけるパーキンソン病療養者の日常生活を維持・拡大の困難な要因の支援について—自己効力感を高めるカウンセリング技法—. 第21回日本在宅ケア学会学術集会, 東京都.
- ・中江秀幸, 相馬正之, 原田光子 (2016). 在宅パーキンソン病患者の身体機能および身体活動量の変化—介入から1年以上経過後の機能—. 第51回日本理学療法学術大会, 札幌市.
- ・平山香代子, 王麗華, 原田光子 (2016). 看護基礎教育機関における海外研修の位置づけと実際, 国際医療福祉大学学会学術大会, 栃木県.
- ・鈴木裕子, 木部美知子, 奥野久美子, 矢野知恵, 中嶋一恵, 宗像恒次, 平山香代子, 原田光子 (2016). 多死時代のメンタルヘルスの課題と対策—まちの看取りの力充実の必要—. 日本保健医療行動科学学会, 東京.
- ・鈴木裕子, 木部美知子, 奥野久美子, 矢野知恵, 中嶋一恵, 原田光子 (2017). 看護職の自己認識達成への支援—職業的アイデンティティとキャリア開発を繋ぐもの—. 日本公衆衛生看護学会, 仙台市.

研究助成及び研究活動報告

- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 C), 研究課題番号 25463558, 2013-2017. 研究課題名「パーキンソン療養者に対する早期からの看護支援・リハビリテーションプログラムの開発」原田光子 (研究代表者), 中江秀幸 (研究分担者), 富安真理 (研究分担者).

学会等社会貢献

- ・日本精神保健社会学会査読者

深谷 智恵子

学会等社会貢献

- ・一般社団法人日本循環器看護学会 監事（～2016.10）
- ・一般社団法人日本クリティカルケア看護学会 監事
- ・一般社団法人日本クリティカルケア看護学会誌 専任査読者

宮本 眞巳

原著論文等

- ・三木明子, 山田典子, 宮本眞巳, 日下修一, 柳井圭子, 友田尋子 (2016) . 日本の学部・大学院教育で司法看護教育をどう教えるか. アディクション看護. 13 卷 1 号, 32-43.
- ・川俣文乃, 高濱圭子, 美濃由紀子, 宮本眞巳 (2016) . 看護場面の再構成による臨床指導－感情活用に向けた継続学習 積極的傾聴と無力の表明－. 精神科看護. 43 卷 4 号, 34-41.
- ・堀川英起, 早乙女莉沙, 宮本眞巳 (2016) . 看護場面の再構成による臨床指導－援助関係をめぐる距離感と感情活用. 精神科看護. 43 卷 6 号, 58-65.
- ・宮本眞巳 (2016) . 看護場面の再構成による臨床指導－看護学生のアイデンティティ危機と感情活用援助関係に相応しい距離とは－. 精神科看護. 43 卷 7 号, 51-57.
- ・宮本眞巳 (2016) . 心の健康と生活習慣－精神機能障害としての生活習慣病. 日本保健医療行動科学会雑誌. 31 卷 1 号, 13-21.
- ・美濃由紀子, 畠菜冬, 高濱圭子, 宮本眞巳 (2016) . 看護場面の再構成による臨床指導－感情活用の体得と継承 期待をプレッシャーからパワーへ－. 精神科看護. 43 卷 9 号, 68-75.
- ・畠菜冬, 美濃由紀子, 高濱圭子, 田上美千佳, 宮本眞巳 (2016) . 看護場面の再構成による臨床指導－看護学生の精神看護学実習における自己への理解と活用－. 精神科看護. 43 卷 11 号, 67-75.
- ・宮本眞巳 (2016) . 精神科看護における観察をめぐって. 精神科看護. 43 卷 12 号, 4-10.
- ・井上結菜, 高濱圭子, 宮本眞巳 (2016) . 看護場面の再構成による臨床指導－患者とともに成長する機会としての臨地実習－. 精神科看護. 44 卷 1 号, 54-62.
- ・宮本眞巳 (2016) . 感性を磨く技法としての異和感の対自化. 日本保健医療行動科学会雑誌. 31 卷 2 号, 31-39.
- ・宮本眞巳 (2017) . 看護場面の再構成による臨床指導－価値意識の理論と異和感の対自化「脱-真実」に抗して. 精神科看護, 44 卷 3 号. 62-69.
- ・宮本眞巳 (2017) . 多職種・市民連携－チーム医療. 日本保健医療行動科学会編－講義と演習で学ぶ保健医療行動科学 講義編. 日本保健医療行動科学会雑誌. 31 卷別巻, 54-55.
- ・宮本眞巳 (2017) . 多職種・市民連携－患者会と家族会. 日本保健医療行動科学会編－講義と演習で学ぶ保健医療行動科学 講義編. 日本保健医療行動科学会雑誌. 31 卷別巻, 55-56.

学会発表

- ・岡村典子, 美濃由紀子, 田上美千佳, 宮本眞巳 (2016) . 感情知性理論を用いた看護基礎教育の展開による援助関係形成力の獲得プロセス. 日本精神保健看護学会, 滋賀県.
- ・宮本眞巳, 美濃由紀子, 高濱圭子, 松浦佳代, 田上美千佳 (2016) . グループスーパービジョンに基づく包括的な事例検討会－感情活用能力の向上を目指して－. 日本看護科学学会学術集会, 東京都.

学会等社会貢献

- ・ 日本保健医療行動科学会理事
- ・ 日本家族と子どもセラピスト学会理事
- ・ DARC 女性ハウス理事
- ・ 日本精神保健看護学会代議員
- ・ 日本保健医療社会学会評議員
- ・ 千葉県立長狭高等学校連絡協議会委員

休波 茂子

原著論文等

- ・ 鶴沢淳子, 有家香, 佐久間夕美子, 渡邊八重子, 休波茂子 (2016). 基礎看護技術の修得に共通一事例を用いた教育方法の学修効果. 日本看護学会論文集看護教育, 11-14.

学会発表

- ・ 中川泰弥, 渡邊八重子, 休波茂子 (2016). 米国の QSEN コンピテンシーに基づいた医療安全教育プログラム試行・評価, 日本看護科学学会学術集会, 東京都.

研究助成及び研究活動報告

- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究課題番号 25463354, 2013-2018. 研究課題名「看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価」. 渡邊八重子 (研究代表者), 手島恵 (研究分担者), クローズ幸子 (研究分担者), 休波茂子 (研究分担者).

学会等社会貢献

- ・ レベル1 研修『看護診断基礎』研修会講師. 亀田総合病院 (20.0 時間)
- ・ 『看護診断』研修会講師. 昭和病院 (4.5 時間)
- ・ 臨床美術協会 理事.

大石 昌也

研究助成及び研究活動報告

- ・TR&K (株) , メディカル (株) 新生児・乳児用複合モニタ開発共同研究. (2015 より不定期)
- ・JMS (株) ポケットレーザ血流計開発援助. 2016.11 より不定期

学会等社会貢献

- ・日本新生児成育医学会 評議員 (～2016.12.31)

久保 幸代

原著論文等

原著論文

- ・ Akira Tsunoda, Tomoko Takahashi, Kaori Arika, Sachiyo Kubo, Takeshi Tokita, Shogo Kameda (2016), Survey of electric bidet toilet use among community dwelling Japanese people and correlates for an itch on the anus, Environ Health Prev Med, 21, p.547-553.

解説

- ・ 久保幸代 (2016) . 指導の在り方を考えるための実習指導者研修会. 看護展望, 42 (2) , 40-43.

学会発表

- ・ 柚山香世子, 高橋道明, 久保幸代 (2016) . 看護補助業務アルバイトにおける看護学生の体験. 日本看護科学学会, 東京都.

学会等社会貢献

- ・ 日本助産師会 組織強化委員会 委員長.
- ・ 千葉県看護協会 助産師職能委員会 委員.
- ・ 日本私立看護系大学協会委員会 委員.

栗栖 千幸

学会発表

- ・ Rie Iino, Misako Miyazaki, Mina Ishimaru, Reiko Tokita, Yukari Sugita, Seiko Iwase, Yuko Tutiya, Noriko Sato, Nobuyo Ueda, Chiyuki Kurisu (2016) A Delphi method-based examination of community nursing skills useful for the maintenance and development of prevention activities ,19th EAFONS East Asian Forum Of Nursing Scholars in Chiba,Japan March 15 (Tue.).
- ・ 島吉伸, 栗栖千幸, 真田正博 (2016) . プロジェクト特性と MCS の関係 - コントロール・パッケージの視点から. 日本原価計算研究学会第 42 回全国大会 2016 , 中央大学.

研究助成及び研究活動報告

- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究課題番号 25463352, 2013-2018. 研究課題名「看護サービスの品質マネジメントモデルの構築に関する研究」. 栗栖千幸 (研究代表者), 安酸建二 (研究分担者), 島 吉伸 (研究分担者) .
- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究課題番号 25293470, 2013.4-2018.3. 研究課題名「予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドの作成と普及に関する研究」. 宮崎美砂子 (研究代表者), 石丸美奈 (研究分担者), 杉田由加里 (研究分担者), 飯野理恵 (研究分担者), 時田礼子 (研究分担者), 佐藤紀子 (連携研究者), 栗栖千幸 (連携研究者), 上田修代 (連携研究者), 岩瀬靖子 (研究協力者), 土屋裕子 (研究協力者), 岩瀬靖子 (研究協力者) .

学会等社会貢献

- ・ 亀田総合病院地域連携室会議委員 2011.5～
- ・ 亀田医療大学臨床指導者研修会シンポジウム「実習指導者研修会を終えて～実習プランの作成と活用
の実際」講師. 2016.8
- ・ NPO 法人現代経営学研究所第 29 回ワークショップ「医療情報の管理と医療マネジメント」パネルディスカッション招待. 2016.10. 大阪市.
- ・ 第 7 回地域医療連携交流会「地域包括ケアについて」 2017. 2.

平山 香代子

著書

- ・平山香代子, 星山真理子 (2016.8) .実践社会学を創る 第3章 福祉と社会 第6節 ICT時代における慢性心不全療養者へのセルフケア支援方法の模索. 日本教育財団出版会, 124-129.

原著論文等

- ・荒木晴美, 正野逸子, 本田彰子, 菊池和子, 上野まり, 栗本一美, 平山香代子, 王麗華, 土平俊子, 炭谷靖子 (2017.3) .介護支援専門員研修における4側面のアセスメントシートと関連図活用による気づきの分析. 日本看護福祉学会誌, 22 (2) , 203-217.

学会発表

- ・真野明日花, 平山香代子, 王麗華, (2016.7)、訪問看護師の職務に対する欲求—質問紙作成のための文献による概念の整理—, 第21回日本在宅ケア学会学術集会、398. (横浜)
- ・王麗華, 落合佳子, 奥平寛奈, 平山香代子, 松村由紀 (2016.7) . 統合分野の位置づけにおける在宅看護論教育の課題—「難病患者の在宅看護」に関する教科書の比較から—, 第26回日本看護学教育学会誌, 224. 東京都
- ・平山香代子, 王麗華, 原田光子 (2016.8) . 看護基礎教育機関における海外研修の位置づけと実際. 第6回国際医療福祉大学学会学術大会, 174. 栃木県.
- ・王麗華, 平山香代子, 落合佳子, 桑野美夏子, 黒田美知子, 阿久津和子, 齋藤恵子, 降籟幹子, 磯山優 (2016.8) . 漢方における看護実践の特徴に関する文献検討. 第6回国際医療福祉大学学会学術大会, 148. 栃木県.
- ・落合佳子, 王麗華, 平山香代子 (2016.8) . 認知症患者の在宅看護に関する教育上の課題—看護系大学で使用されている教科書の形式知の比較から—. 第6回国際医療福祉大学学会学術大会, 151. 栃木県.
- ・Kayoko Hirayama, Lihua Wang, Masaru Isoyama (2016, October) . Connotations of 3 Concepts for discharge facilitation in Japan, Agenda of Global Human Caring Conference-China, 428. 中国・武漢.
- ・Lihua Wang, Masaru Isoyama, Kayoko Hirayama, (2016, October) ,The Characteristics of Visiting Nurse' s Care Action to the Family of Patients-Involved Care in the Daily Life-, Agenda of Global Human Caring Conference-China, 416. 中国・武漢.
- ・Masaru Isoyama , Lihua Wang、San Hwa Lee, Kayoko Hirayama, (2016, October) , “Wa No Seishin” (The Spirit of Harmony)and How to Organize Caring Professionals Japan at Visiting Nursing -From the View of the Organization Culture Theory-, Agenda of Global Human Caring Conference-China, 420. 中国・武漢.

研究助成及び研究活動報告

- ・科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 15K11815, 2015-2018. 研究課題名「Web コミュニティを用いた訪問看護情報・知識の創発・学習プログラムの構築」. 王麗華(研究代表者), 磯山優(研究分担者), 平山香代子(研究分担者), 安藤公彦(研究分担者), 太田浩子(研究分担者), 遠藤順子(研究分担者).
- ・科学研究費助成事業（基盤研究 C）. 研究課題番号 25463541, 2013-2016. 研究課題名「訪問看護における臨床と教育機関の連携融合教育—学習プログラムの開発—」. 本田彰子(研究代表者), 正野逸子(研究分担者), 菊池和子(研究分担者), 炭谷靖子(研究分担者), 荒木晴美(研究分担者), 栗本一美(研究分担者), 赤沼智子(研究分担者), 王麗華(研究分担者), 上野まり(連携協力者), 平山香代子(連携協力者).
 - ・“Awarded as the excellent poster” in Global Human Caring Conference-China, 2016, October., Kayoko Hirayama, Lihua Wang, Masaru Isoyama., Connotations of 3 Concepts for discharge facilitation in Japan.

学会等社会貢献

- ・亀田医療大学地域連携室 委員. 医療連携会議に出席. 薬の啓発活動に関する調査の実施.
- ・日本私立看護系大学協会 協会委員会委員. 研修開催時の当日実行委員.
- ・第 32 回日本保健医療行動科学会学術大会準備室 事務局長. 2015.6.17,18 に開催に向けての準備

渡邊 八重子

原著論文等

- ・渡邊八重子, 青木和夫, 中谷直史 (2016) . 看護業務の労働負担と疲労に関する研究. バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌, 18 (1) , P.19-26.

学会発表

- ・中川泰弥, 渡邊八重子, 休波茂子, 米国の QSEN コンピテンシーに基づいた医療安全教育プログラム 試行・評価. 日本看護科学学会, (東京).

研究助成及び研究活動報告

- ・科学研究費助成事業（基盤研究 C）研究課題番号 25463354, 2013-2018. 研究課題名「看護学生の臨地協働による医療安全教育プログラム開発と評価」.渡邊八重子 (研究代表者), 休波茂子 (研究分担者), クローズ幸子 (研究分担者), 手島恵 (研究分担者) .

学会等社会貢献

- ・千葉大学大学院看護学研究科非常勤講師, 「組織の安全文化の醸成 TeamSTPPS 導入の効果」, 渡邊八重子, 2016.7.9.13:00-16:00.
- ・第 36 回日本看護科学学会学術集会 (東京). 実行委員, 2016.12.10.

有家 香

著書

- ・有家香, 貝瀬友子, 加藤良子ら (2017) . 2018 年版 看護師国家試験問題 解答・解説 第 106 回看護師国家試験問題 解答・解説. メヂカルフレンド社, p.136 (午前 1、3、5、9、20、32).

原著論文等

- ・有家香, 鶴沢淳子 (2016) . 共通一事例を用いた基礎看護技術における講義・演習の教育効果の検討(原著) (査読付き). 第 46 回 日本看護学会論文集 看護教育. p.7-10.
- ・鶴沢淳子, 有家香 (2016) . 基礎看護技術の修得に共通の一事例を用いた教育方法の学修効果(原著)(査読付き). 第 46 回 日本看護学会論文集 看護教育.p. 11-14.
- ・Survey of electric bidet toilet use among community dwelling Japanese people and correlates for an itch on the anus(査読付き). Akira Tsunoda, Tomoko Takahashi, Kaori Arika, Sachiyo Kubo, Takeshi Tokita & Shogo Kameda.(2016). Environmental Health and Preventive Medicine.Volume 21,Number 6.pp.547-553.
- ・鶴沢淳子, 佐久間夕美子, 有家香(2017.2). 認知症高齢者グループホームにおける介護職者からみた訪問看護師の関わり. 日本健康医学会雑誌, p.266-275.

鵜沢 淳子

原著論文等

- ・有家香, 鵜沢淳子 (2016). 共通一事例を用いた基礎看護技術演習における教育効果の検討 (原著) (査読付き). 第 46 回 日本看護学会論文集 看護教育. pp.7-10.
- ・鵜沢淳子, 有家香 (2016). 基礎看護技術の修得に共通の一事例を用いた教育方法の学修効果 (原著) (査読付き). 第 46 回日本看護学会論文集 看護教育. pp11-14.
- ・鵜沢淳子, 佐久間夕美子, 有家香 (2017.02). 認知症高齢者グループホームにおける介護職者と訪問看護師との関わり (原著) (査読付き). 日本健康医学会雑誌 第 25 巻 第 4 号. pp266-275.

鈴木 裕子

原著論文等

- ・原田光子, 鈴木裕子, 秋葉久典, 大嶋幸一郎 (2017) . パーキンソン病の方の暮らしやすい地域を目指して. 日本保健医療行動科学会雑誌, 32(2), P58-63.
- ・鈴木裕子, 原田光子, 平尾由美子 (2017) . 共生社会を紡ぐ地域カフェ活動. 月刊地域ケアリング, 北隆館, Vol.19 No.13, P56-59.

学会発表

- ・鈴木早苗, 鈴木裕子, 原田光子 (2017) . 大学教育と連動したクリニックにおけるプライマリ・ケア実習の実践—新卒者が就職先に選択できる職場—. 日本プライマリ・ケア連合学会 (高松市) .
- ・栗原美由紀, 大沼洋子, 鈴木裕子, 原田光子 (2017) . 安房地域のプライマリヘルスケア活動—クリニックにおけるセルフケア支援について地域看護の視点から—. 日本保健医療行動科学会 (鴨川市) .
- ・鈴木裕子, 原田光子, 平尾由美子 (2017) . 安房地域のセルフケア力に繋がるカフェ活動—南房総市「おたがい茶間」鴨川市「青空カフェ」館山市「つむぎ」—. 日本保健医療行動科学会 (鴨川市) .
- ・原田光子, 鈴木裕子, 秋葉久典, 大嶋幸一郎 (2017) . —パーキンソン病の方の暮らしやすい地域を目指して—ワークショップ. 日本保健医療行動科学会 (鴨川市) .
- ・鈴木裕子, 原田光子 (2017) . 地域レジリエンスと地域包括ケアシステムの構築—大学地域看護学領域におけるカフェ活動の実践—. 日本精神保健社会学会 (東京都) .

研究助成及び研究活動報告

- ・鈴木裕子, 原田光子, 奥野久美子 (2018) . 地域包括ケアシステムを担う人材育成—プライマリヘルスケアとプライマリケア実習の実践—. 日本公衆衛生看護学会 (大阪) 準備.
- ・鈴木裕子, 原田光子, 奥野久美子 (2018) . これからの地域包括ケアシステムを担う人材の育成のための学習方法—地域・在宅看護学領域における取組と学習方法の検討—ワークショップ. 日本公衆衛生看護学会 (大阪) 準備.

学会等社会貢献

- ・日本精神保健社会学会理事.
- ・日本精神保健社会学会会計.
- ・日本精神保健社会学会査読者.
- ・日本保健医療行動科学会学会学術大会事務局委員.
- ・日本保健医療行動科学会学会学術大会抄録査読者.
- ・大学発地域カフェの開催(2017.9.27). 企画: 原田光子, 鈴木裕子 (鴨川市) .

中島 洋一

原著論文等

- ・中島 洋一 (2016.4) . 緩和ケア病棟看護師の QOL に対する患者の看取り経験の影響について. インターナショナル Nursing Care Research 第 15 巻第 1 号, P.65-74.
- ・中島 洋一 (2016.11) . 精神科病棟における看護師のストレスの測定について. インターナショナル Nursing Care Research 第 15 巻第 4 号, P.133-142.

学会等社会貢献

その他の活動

- ・有限会社松本興業健康推進事業 (講師) (2016.5) (1 回, 2 時間) . 効果的なコミュニケーション技法 (I メッセージ、You メッセージ) の効果と特徴の講義. 演習.
- ・株式会社白幡興業健康推進事業 (講師) (2016.7) (1 回, 2 時間) . 精神の健康を保つ意味について講義.
- ・学校法人鉄蕉館亀田医療技術専門学校日本語学科 (講師) (2016.10-11) (7 回, 15 時間) . 看護師国家試験精神看護領域対策講義, 模擬試験実施及び解説.
- ・有限会社松本興業健康推進事業 (講師) (2016.10) (1 回, 2 時間) . 効果的なコミュニケーション技法 (I メッセージ、You メッセージ) の効果と問題点の講義. 演習.
- ・館山市北条地区青年会健康づくり事業 (講師) (2016.12) (1 回, 2 時間) . 相手の立場理解の必要性として, 他者尊重と理解, 相手は何を伝えたいのかについて講義. 演習.
- ・医療法人南陽会田村病院 (顧問) 看護主任・看護副主任者管理者研修 (講師) (2017.1) (1 回, 2 時間) . 組織の在り方や集団について講義, ワークショップ実施.
- ・医療法人南陽会田村病院 (顧問) 看護主任・看護副主任者管理者研修 (講師) (2017.2) (1 回, 2 時間) . 日常業務における問題点についての問題解決技法.
- ・株式会社白幡興業健康推進事業 (講師) (2017.3) (1 回, 2 時間) . 健康管理とその予防について講義.
- ・医療法人南陽会田村病院 (顧問) 看護主任・看護副主任者管理者研修 (講師) (2017.3) (1 回, 2 時間) . 問題解決のための事例検討.

高橋 道明

学会発表

- ・藤尾麻衣子, 安島幹子, 西田朋子, 高橋道明, 佐々木幾美 (2016) . 多様な背景をもつ看護職員に対する教育支援体制構築のためのモデル作成ー多様な背景をもつ看護師への面接調査ー, 日本看護管理学会学術集会 (横浜) .
- ・高橋道明, 藤尾麻衣子, 安島幹子, 西田朋子, 佐々木幾美 (2016) . 看護系以外での学習経験や社会人経験を持つ看護職員の特徴と教育支援, 指導者へのグループインタビューから, 日本看護学教育学会学術集会 (東京) .
- ・柚山香世子, 高橋道明, 久保幸代 (2016) . 看護補助業務アルバイトにおける看護学生の体験, 日本看護科学学会学術集会 (東京) .

研究助成及び研究活動報告

- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究課題番号 : 26463261, 2014-2016, 研究課題名「多様な背景をもつ看護職員に対する教育支援体制構築のためのモデル作成」. 佐々木幾美(研究代表者)、西田朋子(研究分担者)、藤尾麻衣子(研究分担者)、高橋道明(研究分担者).

学会等社会貢献

- ・日本看護管理学会 広報・学術情報委員
- ・「教育評価」(講師)、亀田総合病院、平成 28 年 8 月 1 日
- ・「呼吸療法セミナーin 湘南 2016」(インストラクター)、湘南藤沢徳洲会病院(2016.7.16).
- ・「若手医師のための人工呼吸器ワークショップ」(インストラクター)、フィリップス・レスピロニクス合同会社(2016.6.4)(2016.8.6-7)(2016.9.10-11).

松丸 直美

学会発表

- ・松丸直美, 原田光子, 富安眞理, 平尾由美子 (2016) . 在宅におけるパーキンソン病療養者の日常生活を維持・拡大する上で困難となる要因への支援について—自己効力感を高める支援—, 第 21 回日本在宅ケア学会 (東京都江東区) .
- ・原田光子, 中江秀幸, 松丸直美, 富安眞理, 平尾由美子 (2016) . 在宅におけるパーキンソン病療養者の看護職に関する服薬管理プログラム, 第 21 回日本在宅ケア学会 (東京都江東区) .

学会等社会貢献

- ・第 32 回日本保健行動科学会学術大会, 運営・企画委員(2016.8.31～)
- ・映画会「いっぺさ! 鴨川シアター」報告(2016.11) . 第 8 回南房総リハケア文化祭 (南房総市) .
- ・千葉県文理開成高校出張講義講師「心の健康、意識していますか？」(2017.3).

吉野 妙子

学会等社会貢献

- ・鴨川市立田原小学校「心と身体の栄養～郷土料理の不思議～」 家庭教育学級 講師 (2016.9)

鈴木 玲子

著書

- ・有家香, 貝瀬友子, 加藤良子, 藏谷範子, 小山裕子, 佐藤真由美, 清水泰子, 末永弥生, 鈴木玲子, 高野海哉, 高橋明美, 高橋道明, 富澤栄子, 博多祐子, 藤村祥子, 星野美幸, 真野響子, 森本悦子, 山崎由美子, 山下留理子(2016 . 4). 2018 年版 看護師国家試験問題 解答・解説 別冊第 106 回看護師国家試験問題 解答・解説, P11(午前 33)、P52 (午後 14)、P53(午後 15.16)、P54 (午後 22) P57 (午後 32) メヂカルフレンド社編集部

中川 泰弥

学会発表

- ・ 中川泰弥, 渡辺八重子, 休波茂子 (2016) . QSEN コンピテンシーに基づいた医療安全教育プログラムの施行・評価, 日本看護科学学会 (東京) .

研究助成及び研究活動報告

- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究課題番号 25463354,2013-2018. 研究課題名「QSEN コンピテンシーに基づいた医療安全教育プログラムの施行・評価」.渡辺八重子 (研究代表者), 休波茂子 (研究分担者), 中川泰弥 (研究分担者) .
- ・ 中川泰弥 (研究代表者), 休波茂子 (研究分担者), 渡辺八重子 (研究分担者), 鶴沢淳子 (研究分担者), 有家香 (研究分担者), 新川実穂 (研究分担者) . 基礎看護学における統合的な看護技術習得に向けた教育プログラムの開発とその評価. 本学倫理審査申請(2016.10), 受理され,現在収集した第一次データ (日常生活援助論演習レポート) の内容分析中.

2. 委員会活動報告

評価委員会

構成員：恵美須 文枝、吉川 一枝、新田 静江、休波 茂子、江羅 茂

事務担当：平川 弘一、安田 紫音

会議開催状況

開催回数：8回

審議事項・活動内容

- 1) 評価委員会規則の改正（審議事項に年報作成を追加、職員評価を除外）、今年度委員の担当役割確認、年間活動計画、授業評価の取り扱いは本委員会所管とする。
- 2) 自己点検評価の評価項目の確認：日本高等教育評価機構の評価項目の内容確認を行い、学内の実施体制について検討
- 3) 自己点検評価内容の分担案の検討、外部評価員候補者の選出（川村氏）、27年度年報作成の分担案検討
- 4) 平成27年度年報の原稿作成の調整、教員の授業評価の結果報告（学科会議）、教員の学内昇格基準の検討
- 5) 学内教員昇格基準について（評価事項具体的検討・他、）平成27年度年報の完成について継続検討
- 6) 教員昇格基準案（業績評価、昇格審査の適用）の提案について、外部評価委員の候補（泉氏）について
- 7) 機関別評価の自己点検評価活動の進め方について
- 8) FD/SD 開催（2/23）予定の確認、自己点検評価事項の担当委員会等確認、今後の活動予定について今年度は、主たる活動として作成した昇格基準を用いて、学内昇格を実施し、大学評価に向けての準備と体制づくりとして、日本高等評価機構への入会手続きを1月26日に完了したことで、活動結果を残せたといえる。

今後の対応・課題

- 1) 平成30年度の機関別評価の受審に向けて
 - (1) 日本高等教育評価機構の評価に向けて、具体的評価事項に関連する各担当委員会の活動を年度当初から一層充実した活動にさせるとともに、実績の可視化を推進する。
 - (2) 選出した外部委員2名に対して、次年度早期に機関別評価に向けた取り組みについて、意見をもらう機会を作る。
- 2) 学内昇格基準について
29年度の学内昇格結果に基づく評価を行い、今後に向けた改善を確認しておくとともに教員個々の自己評価に基づく、計画的な業務遂行を推進するための仕組みを今後検討する必要がある。

人権委員会

構成員：宮本 眞巳、吉川 一枝、足立 智孝、座間 純、江羅 茂、藤枝 悦子
事務担当：齊藤 可奈子

会議開催状況

開催回数：3回

審議事項・活動内容

1) ハラスメント防止研修会の実施

前年度に開催したハラスメント防止のための教職員研修のアンケート結果を踏まえて、研修の効果や今後の課題について審議・意見交換を行った。その結果、部署、分野、職位間のコミュニケーション上の問題点が浮き彫りとなり、その点についての認識を共有することが、ハラスメント発生のリスクを解消する上で重要であるとの結論に達した。

審議内容を踏まえて、10月27日に全教職員を対象としたSDを開催し、ハラスメント防止の促進に向けた組織としての取り組みの原則を確認することと合わせて、チー職場チームおける望ましいリーダーシップ、メンバーシップをめぐる提言を行った。

2) DV 対策について

DV 被害に遭う学生が後を絶たない現状への対策について審議し、相談窓口等について記したカードを女子トイレ等に配置することとなり、小児保健看護学、ウィメンズヘルス看護学教員の協力を得て実施した。

3) SNS 上のトラブルへの対応について

SNS 上の誹謗・中傷等による被害についての相談があり、学内掲示板にて告知・警告を行なうと共に、被害学生には SNS 管理者への対処を要請し、被害は終結をみた。

また、SNS 上に不適切な投稿を行った学生について、個人情報保護並びにハラスメント防止の観点から忠告をおこなった。

4) アルコール問題についての対応

集団による未成年飲酒問題、及び急性アルコール中毒による受診問題が発生したため、学生委員会及び当該学生のチューターと共に事情聴取を行ったが、飲酒強要等のハラスメント行為はなかったことが判明した。こうした経緯を踏まえて、全学年を対象とし学年ごとに実施しているハラスメント防止ガイダンスに、酒害問題に関する内容を加えた。

今後の対応・課題

1) ハラスメント研修会

教職員を対象に、ハラスメントを生じさせない職場環境づくりに向けて、職場内のコミュニケーション上の問題点の明確化と、その解消を図るためにグループワーク形式の研修の実施に向けて準備を進めている。

2) DV 対策について

被害者、加害者のどちらも出さないための啓発活動が必要であり、講義やガイダンスを通じたきめ細かい対策への取り組みが必要である。

3) SNS 上のトラブルへの対応について

ハラスメント防止の観点から、SNS 上のトラブルへの巻き込まれ防止に向けた啓発活動と相談活動に引き続き取り組んでいく。

4) 相談員の研修及びサポート体制について

相談員の入れ替えに伴い、相談員研修及び、相互支援体制づくりに取り組んでいく。

研究倫理審査検討委員会

構成員：足立 智孝、栗栖 千幸、久保 幸代、佐藤 真由美、古賀 雄二
事務担当：平川 弘一、橋本 昂一郎

会議開催状況

開催回数：5回

審議事項・活動内容

1) 学生研究の倫理審査について

学生が「研究ゼミナール」で研究した内容を学外で発表を希望する場合には、本学倫理審査委員会で審査することとし、学生研究のための審査委員会開催日を設けた（本年度の開催はなかった）。

2) 研究倫理講習について

(1) e-learning (CITI Japan) のコース登録及び研修内容について

本学の研究倫理講習教材である CITI Japan における本年度採用するコースや単元構成を昨年度の教職員コースと同様の内容を登録した。なお、来年度も同じ内容を登録することとなった。

(2) 「実施概要」の改正

研究倫理講習の実施概要を改正した。e-learning 講習への 2 年間の移行期間を終え、平成 29 年 4 月 1 日から e-learning での研究倫理講習受講を全専任教員および研究に携わる職員に義務付けること、それにより研究倫理受講履歴の有効期間を明確化すること、また学外の共同研究者に対する研究倫理講習受講の義務づけを行うことになった。なお、学外の研究者が所属機関で研究倫理講習を受講できない場合は、eL CoRE 等個人で受講できる講習を受講することを推奨することを確認した。今後、倫理講習未受講者に対しては、委員会が受講を促すことになった。

3) 事前倫理審査体制の改善の検討について

総合研究所生命倫理研究室の設置により、同室員による事前審査の可能性について検討した。委員以外が審査に関わることの妥当性を含め、今後の検討課題となった。

4) 教職員及び学生の学外での発表について

教員が研究活動以外の学外発表を行う場合に研究倫理審査委員会による審査の必要性について審議した。

その結果、本委員会での審査は不要となった。学生の学外活動（発表）については、学外活動願の提出を義務づけており、また担当教員の関与があるため、当該教員の判断に委ねることとした。

また、授業で取り扱った情報を用いて学外発表をするケースについては、教務・カリキュラム委員会と相談の上、発表できるようにするための手続きを検討することになった。

5) 利益相反自己申告書（第二次報告）について

本学には利益相反自己申告書（第一次報告書）によって利益相反の有無を申告することになっているが、利益相反を有する場合に申告する文書がなかったため、新たに第二次報告書を作成した。

6) 条件付承認後の指摘事項回答期限について

倫理審査の結果、条件付承認となった申請者は、指摘事項を示した文書を受け取った後の回答期限を 2 週間とすることとなった。事務局は申請者に対して、回答期限を明示することとなった。

7) 委員研修

(1) 学内研修

第 2 回委員会では、研究倫理綱領である世界医師会「ヘルシンキ宣言」(2013 年改訂版)を委員で輪読し、委員で疑問点を討論し、研究倫理の理解を深めた。

(2) 学外研修

下記のように事務担当職員が研究倫理に関する研修会・説明会に出席し、委員会内で情報共有した。

平川「研究活動における不正行為への対応等に関する説明会」(平成 28 年 7 月 4 日)

平川「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針改正に関する説明会」(平成 28 年 8 月 29 日)

平川「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針改正に関する説明会」(平成 29 年 2 月 24 日)

8) 研究倫理審査委員会の運営

2 回の審査委員会を開催し、新規申請 7 件、変更申請 2 件の審査を行った。

今後の対応・課題

1) e-learning による倫理研修の励行

2) 改正倫理指針の学内周知および改正指針に即した倫理審査体制の運営

3) 本委員会委員の倫理研修

保健衛生安全管理委員会

構成員：原田 光子、大石 昌也、栗栖 千幸、鈴木 裕子、鶴沢 淳子、柚山 香世子、
鈴木 玲子、古谷 直子、金丸 満里子、
事務担当：堀 強、間宮 庄治、山田 純子、川上 知恵子

会議開催状況

開催回数：7回

審議事項・活動内容の概要

1) 学生保健に関すること

(1) 1～4年生に健康診断を実施し、健康問題を抱える学生に対して看護職および委員で健康支援を実施した。

(2) 感染予防教育について

1年生を対象に、前期に校医により「感染症対策：ワクチン接種の必要性、医療従事者の責務」、後期に、感染管理認定看護師による「感染症から身を守る」の講演会を実施した。また、インフルエンザが流行する時期とインフルエンザ罹患者の状況に応じて、予防するためポスターの掲示、予防の喚起を実施した。

(3) ワクチン接種について

1年生に対して、臨床実習に備えて母子手帳からワクチン接種歴を確認し、必要な学生に小児感染症に関するワクチン接種を実施した。百日咳は1年生全員、HB ワクチンは1年生全員と2年生の一部実施、インフルエンザは10月にほぼ全学生に実施した。

2) 防災訓練に関すること

(1) 津波訓練(6月)は、鴨川市と合同で実施した。2年生(授業が無し)、4年生(選択科目の実習期間)は不参加となった。委員会で避難マニュアルを作成し訓練を実施した。全学生の屋上への避難経路が1か所であるため、混雑を防ぐ誘導方法の検討が必要になった。

(2) 消防訓練(火災訓練)は、7月は学生会館を中心に、10月は本校舎中心に2回実施した。10月の訓練では、教員が実習のため数が少なく、1年生が誘導待ちしている状況であった。

(3) BLS教育について

BLS教育の位置づけが、平成27年度から保健衛生安全管理委員会となった。BLS教育の企画を委員会で行い、BLSインストラクターの資格をもつ教員を中心に1年生に実施した。平成29年度実施に向け、企画・準備を行った。

今後の対応・課題

1) 学生保健に関して

保健室の看護職が10月までは週2日の勤務であったが、看護職（新任者が着任）が11月から月曜日～金曜日の勤務となり、常に学生の健康問題の対応ができるようになった。また、健康診断の企画、事後フォロー、予防接種の企画、実施がスムーズとなった。

2) BLS 教育について

BLS 研修は2年毎の更新である。そのため、在学中に学生が2年毎に教育を受けることが必要である。以上から、平成29年度は1・3・4年生を対象として実施することで、平成30年度から1・3年生の実施とする。

平成29年度 BLS 教育の企画に向けて、教職員はインストラクターの資格の保持者は少ない。そこで、インストラクターの確保は、亀田総合病院と協力を得ることで BLS 教育が可能となる。今後、教職員、学生に対して BLS 研修の講習費用の補助制度を設け、BLS 教育が大学主体で実施できるようにする。

3) 防災訓練について

津波訓練については、屋上への避難経路が一か所であるため、避難するのに時間を要したことから、避難経路の誘導方法が課題となった。10月消防訓練では、鴨川消防署の講評と指摘事項を踏まえ避難訓練マニュアルの修正を行い、大学内のみで訓練を徹底する方向で実施する。

入試委員会

構 成 員：新田 静江、平山 香代子、深谷 智恵子、久保 幸代、佐藤 真由美、江羅 茂
事務担当：碓井 豊一、宮本 聖子、小原 美乃里

会議開催状況

開催回数：6回 実行部会開催回数：4回

審議事項・活動内容

1) 入学試験関連業務

- (1) 入学試験は、公募推薦入試と指定校推薦入試を本学にて同日に、一般入試Ⅰ期を東京と本学にて2日、センター試験利用入試を本学にて、一般入試Ⅱ期を本学にて実施した。
- (2) 推薦入試の受験生を確保するために、指定校の選定基準（在学生・卒業生が存在し、高校が指定校となることを希望する場合）を、「高校が指定校となることを希望する場合は指定校とすること」と修正した。

2) 入学試験方法

- (1) 平成 27 年度実施した入試区分と入学後成績の分析結果を踏まえ、推薦入試の小論文および一般入試の学科試験の出題について検討した。
- (2) 面接評価用紙における評価点を変更した。

3) 入学者選抜結果

入学者は推薦入試（指定校・公募）で34名、一般入試Ⅰ期で44名、一般入試Ⅱ期で1名、センター試験利用で4名の合計83名であった。

4) その他

多様な背景を持つ受験者を受け入れるために、社会人入試の実施を検討し、教授会および理事会にて平成30年度入試として実施されることが決定された。

今後の対応・課題

- 1) 喫緊の課題となっている受験生確保について、広報委員会と緊密な連携をはかっていく。
- 2) 受験生の費用負担軽減、入試に伴う経費軽減と教職員の拘束時間の軽減をはかる目的で、2日間で実施している一般入試Ⅰ期を、1日での実施に変更する。

広報委員会

構成員：深谷 智恵子、渡邊 八重子、大石 昌也、青山 美紀子、古賀 雄二、
鵜沢 淳子、小坂 玲音
事務担当：小原 美乃里、宮本 聖子

会議開催状況

開催回数：10回

審議事項・活動内容

1) オープンキャンパスの実施

看護体験・模擬授業型と実習病院見学型の2種類のオープンキャンパスを6月～9月の期間に計8回実施し、受験対象者206名、総来場者数430名が参加した。アンケート結果では、62%の受験対象者が本学を受験する予定と回答し、受験校選択の一助となったと考えられる。3月にも低学年対象オープンキャンパスを追加実施し、1年生3名、2年生11名の参加があった。

2) 高校訪問の実施

6～7月に千葉県内の指定校を中心に、全教員に高校訪問を依頼した。千葉県内の高等学校78校へ高校訪問を実施し、開学5年目を迎えた本学の状況と在学生の学業状況について報告し、新たに意欲的な入学者の確保に努めた。また、夏期休暇中に学生による母校訪問を実施してくれる学生を募集し、6名の学生が母校訪問を実施した。地域は、東京都、茨城県、静岡県、千葉県の高校へ実施された。

3) 大学案内、大学リーフレットの作成

大学案内には、別冊にて学生生活をイメージできる情報を掲載した。また、東北地域限定リーフレットや合格者向けリーフレットを作成、各希望者に合わせた情報提供を行った。

4) 大学PR動画の製作

大学PR動画を作成し、視覚的に本学を紹介するとともに、実習病院亀田メディカルセンターとの連携に関する情報提供を行った。

5) 高等学校教員対象講演会の実施

千葉市のホテルにて、関東地域の教員向けに講演会「少子高齢化が進む日本における医療の現状と今後の展望～看護教育に大切なこと～」と座談会「看護師の役割とは(高校生に知ってもらいたいこと)」を実施し、3名の高等学校教員が参加した。

6) その他

出張講義・高校ガイダンス・会場ガイダンスへの参加や、個別見学会を実施することで、受験対象者と直接面会して本学の情報を伝えることに努めた。

推薦入試の受験者数が減少したため、DM 発送の追加、出願カタログ／願書請求 FAX 便などで受験生へ情報提供を行った。1 月、2 月のコンタクト件数が昨年より伸びた。

HP リニューアル（総務担当）について、内容の検討、写真撮影に広報委員会も協力を行った。

市内のバスのラッピング広告、道路脇に立て看板の設置に関して総務広報担当に検討を依頼した。

今後の対応・課題

- 1) 受験生獲得のための広報活動の充実
- 2) 亀田医療大学を広く認知してもらうための広報活動の実践
 - (1) 鴨川市内において、立て看板等の設置
 - (2) ホームページの充実

図書・情報管理委員会

構成員：宮本 眞巳、大石 昌也、新居 富士美、鵜沢 淳子、高橋 道明、松丸 直美、堀 強
事務担当：立野 幸子

会議開催状況

開催回数：10回

審議事項・活動内容の概要

1) 図書館（管理運営）

- (1) 昨年度の開館時間の延長試行結果、今年度から正式に開館時間を 21:00 に延長し、夜間スタッフとして大学所属の学生 3 名を採用した。夜間カウンターは 1 人体制のため各種サービス窓口の制限をし、警備員見回り等のセキュリティ面をカバーする管理運用にした。
- (2) 卒業生の夜間利用について要望があり、4 月から臨時対応をしていたが、学外者を開館時間中に利用できる運用、規程に整え、地域病院・実習施設への広報後、10 月より正式に開館時間中の一般開放を行った。
- (3) 学習支援は図書館主催で初年次教育の文献検索を開催し、2 年生から 4 年生向けには授業内での文献検索補助を教員と協同で行い、学年・カリキュラムに沿った内容となった。
- (4) WEB 利用状況照会サービス、閲覧席の仕切り板パネルの設置等の他、3 月の大学 IT 更改に伴う OPAC システムの切替えを行い利用者の利便性を高めた。
- (5) 委員会の活動内容から情報管理の審議・委員会構成を別途検討してもらう旨を運営会議マターとし、委員会の招集についても来年度から年間 5 回にする事で業務のスリム化を図った。

2) 図書館（選書）

- (1) 予算とは別途「地方創生私募債発行記念品寄贈」として 30 万円分の現物寄贈を受けた。
- (2) 領域毎の選書の他、国試対策資料は進路支援委員の意見も取り入れながら選書した。
- (3) 利用状況から The Cochrane Library は今年度で一旦停止し、大学院開学の際に再検討とする。

3) 情報管理

SNS の利用指導として新入生・在学生ガイダンス時に説明を行い、学生への個人情報取り扱いの指導を行った。

今後の対応・課題

- 1) 開学より図書館スタッフも増員しているため、図書館システムの導入台数を増やし作業の効率を高めたい。またそれと同時にスタッフ研修を充実させ、図書館サービスを向上させたい。

2) 参加機関である日本看護図書館協会の事業局理事(2017~2018)を担当する事になった。自館だけでなく、学外図書館との連携を構築する事で看護専門図書館界の底上げに貢献したい。

国際交流委員会

構成員：原田 光子、恵美須 文枝、平山 香代子、中島 洋一、宮崎 俊一郎、碓井 豊一
事務担当：小原美乃里

会議開催状況

開催回数：4回

審議事項・活動内容

1) 国際交流委員会と科目「国際看護学」の位置づけ

「国際看護学」の位置づけを学校全体の行事とするならば、科目を委員会で実施することの意見があったが、「国際看護学」として責任所在が不明確になるため、科目の担当者が企画、運営、評価にあたる。科目責任者から協力の要望により委員会が協力体制をとる。

2) マニトワック市(アメリカウィスコンシン州)との交流事業

鴨川市の国際姉妹都市としての活動であり、マニトワック市から学生が毎年7月後半～8月上旬に来校するが、本年度は、受け入れ対象はなかった。

3) 国際交流として協定校(大学)の検討

協定校の候補について、4大学の候補があがり各大学について情報収集した。また、協定校について、学長橋本に相談し情報を得ることになった。

事務局長江羅から、山西医科大学より協定を結ぶ希望があり、山西医科大学(中国)と協定の締結の報告があった。

4) 学生が海外研修の機会を得るため情報の発信について

学生が海外研修の機会を得られるように、研修プログラムなどの情報を収集した。その情報を学生が閲覧できるように、本館自習室前に設置した。

今後の対応・課題

学生、教職員について国際交流の推進を図ることを目的とする。

1) 学外から要請される外国からの研修生の受け入れについては、充分準備ができるように期間を設け計画する。それには、大学から可能性のある実施主体等に早めに研修生訪問の情報を入手する。

2) 鴨川市国際交流協会と連携を持ち、大学として何ができるのかを検討する。鴨川市国際交流協会で行われる事業から、学生が異文化を体験できるようにする。また、本学の特徴を生かした地域貢献ができる内容を検討する。

3) 協定校(大学)との交流について、国際交流委員会の役割を明確にする。

教務・カリキュラム委員会

構成員：休波 茂子、真野 響子、足立 智孝、原田 光子、久保 幸代、渡邊 八重子
栗栖 千幸、江羅 茂、碓井 豊一
事務担当：安田紫音

会議開催状況

開催回数：11回

審議事項・活動内容

1) 教員による教育力向上への支援（FD との連携）

FD 委員会と連携による教員の教育力向上のための研修「アクティブラーニング」

2) 学生の学習への支援

(1) 学生の単位修得への指導と支援（学修支援）（継続）

(2) 学生の主体的な授業参加への支援（授業態度の育成）（継続）

(3) 単位不足の学生への指導と支援

(4) 進級判定に関する検討（進級判定内規の修正）

1～3年次の進級判定、各学年における必修科目すべての単位を取得

(5) GPA 制度に関する検討

GPA 導入に向けて学則の変更と

(6) 欠席の取り扱いに関する検討

3) カリキュラム関連

(1) シラバスの内容の検討、シラバスの確認体制の強化

(2) カリキュラム変更に伴う整備

(3) 新旧カリキュラムのマッチング

(4) 科目担当者の検討（非常勤講師も含む）

今後の対応・課題

1) 教員による教育力向上への支援（FD との連携）

(1) 教育力向上のための方法の検討

(2) 効果的な講義・演習の実施とその評価

2) 学生の学習への支援

(1) 学生の単位修得への指導と支援（学修支援）（継続）

(2) 学生の主体的な授業参加への支援（授業態度の育成）（継続）

(3) 基礎的学力の評価／看護教育の基礎となる科目（英語、化学、生物、数学など）

- (4) 低学力者への学習支援の検討
- 3) カリキュラムの検討
 - (1) 科目担当者の検討（非常勤講師も含む）
 - (2) 基礎ゼミナール及び研究ゼミナールの検討
 - (3) カリキュラム改正に向けての準備

臨地実習委員会

構 成 員：平山香代子、久保幸代、渡邊八重子、真野響子、中島洋一、吉野妙子、原田光子、新居富士美

事務担当：碓井豊一、安田紫音

会議開催状況

開催回数：10回

審議事項・活動内容

- 1) 実習調整会議：亀田3校にて実習施設利用に関する調整会議を開催（年2回）。実習病棟に重複がみられることがあるが、大学を優先して調整できている。
- 2) 臨地実習報告会関連（FD共催）
 - (1)臨地実習報告会（学内）：年1回開催（H29年3月7日）
 - (2)臨床指導者会議（亀田病院内）：年5回開催（基礎3回・選択1回・地域1回・統合2回・領域1回）担当する病棟の臨床指導者に看護部を通じて出席を依頼して、スムーズに実施。
- 3) 実習施設関連
 - (1)電子カルテ管理、学生証セキュリティ、教員用携帯電話関連（本年度造設）
 - (2)施設関連：二号館管理、学生駐車場関連、実習用バス運行関連（本年度より導入）
- 4) 実習ガイダンス関連
夏休み前のガイダンス時期に実施：夏休み前に実習グループの発表をして欲しいという学生の要望に応える形で本年度より、夏休み前の時期に実習ガイダンスを実施した。
- 5) 実習要項関連：共通要項・実習要項全般を適時修正し印刷配布
- 6) 実習指導者研修会：全8回のコースで実施。研修をうけた看護師が実習指導に関わる場合、スムーズに連携が取れるようになったとの実習担当教員からの感想を得ている

今後の対応・課題

- 1) 実習調整会議：次回4月14日（金）14時～ 専門学校3F多目的室
- 2) 臨地実習報告会関連
亀田病院内で実施する臨地指導者会議が報告会で終始している事への異論があるものの、各実習場で教員と臨床現場では話し合いが成されているために、集合の場で話し合うことがないという意見もある（各実習指導者及び実習指導教員）。基礎実習や統合実習のように多くの病棟で実習をする場合は、一度に実施することに意味があるが、領域に関しては今後検討する必要がある。
- 3) 実習施設関連

本年度は領域実習と地域看護学実習において実習場への通学バスの運行を試みた。交通費に関して、51万円代の減額になり、ガソリン代や人件費を考えると相殺されるものの、学生の実習場への通学負担の軽減による実習支援には大きな効果があったと推測される。次年度は選択実習によるバスの運用も検討する必要があり、実習委員会の役割は増えていく。また、次年度はアオラニ導入によるカルテ閲覧マニュアル作成も大きな役割となることが考えられる。

4) 実習ガイダンス関連

選択実習の大幅拡大に伴い、前期のガイダンス時に説明会と希望調査を今年度の委員が担当する

5) 実習要項関連：例年どおり

6) 実習指導者研修会：生涯学習センターによって、県の委託事業として生涯学習センターに移管された。

学生委員会

構成員： 足立 智孝、佐藤 真由美、中島 洋一、鈴木 裕子、高橋 道明、柚山 香世子、中川 泰
弥、庄司良幸

事務担当： 山田純子、宮本聖子

会議開催状況

開催回数：13回

審議事項・活動内容

- ・チューター制に関する評価および検討

委員会内でチューター制の改善点について検討した。チューター役割及び学年主任の役割について共通理解の徹底を図る必要があるという意見があった。

- ・各講演会等の実施

1) 性教育講演会

7月に亀田総合病院産婦人科医師、遠見才希子先生による1年生を対象にした講演会を開催した。

2) 税に関する講演会

11月に館山税務署長による2年生を対象とした講演会を開催した。

3) 臓器移植推進出前講座

12月に千葉県臓器移植ネットワーク宮崎麻里子氏による1年生、2年生を対象にした講演会を開催した。

4) 年金説明会

1月に日本年金機構木更津年金事務所による1年生を対象にした講演会を開催した。

- ・保護者懇談会開催およびチューター面接の実施

6月後援会総会時に、保護者懇談会およびチューター面接を実施した。面接には約43名の保護者の参加を得た。

- ・学生生活実態調査の実施

全学生を対象に学生生活実態調査を実施した。この結果を踏まえて、学生支援およびキャンパス環境を改善していく。

- ・各種奨学金に関する選考
- ・学外活動願とボランティア活動願の統一
- ・飲酒を伴う会合開催届の作成
- ・デートDV相談カードとリーフレットの配置
- ・学生懲罰に関する対応
- ・学生ガイダンスの計画・立案

- ・VOICE ボックス対応

今後の対応・課題

- ・チューター制度の改善
- ・奨学金に関する支援
- ・講演会等の開催
- ・学生自治会に関する助言

進路支援委員会

構成員： 吉川 一枝、休波 茂子、新田 静江、真野 響子、有家 香、吉野 妙子、新川 実穂、
藤村 祥子、碓井 豊一

事務担当： 山田 純子

会議開催状況

開催回数：14回

審議事項・活動内容

国家試験対策

- ・4年生に対する補講・特別講義実施
- ・各種模擬試験実施
 - 4年生 業者模試8回、学内模試1回実施
 - 3年生 業者模試2回、学内模試1回実施
 - 2年生 業者実力確認テスト2回実施
- ・個別指導体制の強化
- ・国試ガイダンス（新年度および夏休み前）実施（業者および学内）
- ・卒業生による国家試験対策
- ・学生国家試験準備委員支援
- ・教員対象看護師国家試験対策セミナー実施（業者）
- ・模試代金保護者負担軽減のための取り組み
- ・保護者懇談会（4年生）
- ・国家試験受験に関する支援
 - 看護師国家試験願書記入説明会・准看護師試験願書記入説明会実施
 - 試験前日および当日に関する支援（前泊ホテル・バス・弁当等の手配および引率）

就職支援

- ・亀田メディカルセンター就職ガイダンス実施（2,4年生対象）
- ・進路希望調査の実施（2,3,4年生対象）
- ・医療接遇マナーガイダンス実施（1,2年生対象）

今後の対応・課題

看護師国家試験100%合格を目指す取り組み

- 1) 4年生全員を国試合格ライン以上とするための方策
- ・教員による学生の状況に応じたきめ細かな支援

- ・業者による国試対策の強化
- 2) 既卒者（国試不合格）の対策
- 3) 入学時点から継続した低学力者に対する対策
- ・関係する委員会等と連携して対策を検討

FD (SD) 委員会活動報告

構成員：真野 響子、新居 富士美、休波 茂子、吉川 一枝、有家 香、羽田 洋一
事務担当：橋本 昂一郎

会議開催状況

開催回数：8回

審議事項・活動内容の概要

1) 教員の教育技法を改善するための支援(FD)

- ・臨地実習委員会と協同し、3月7日に平成28年度臨地実習報告会を開催した。参加者アンケートからは、本学のカリキュラムにおける臨地実習の全体像が把握できたこと、学生の特徴と指導における課題が明確になったと評価が得られた。
- ・3月16日に委員会独自の企画として、村中陽子先生によるアクティブラーニングの研修会を開催した。参加者からは、アクティブラーニングへの理解が深まったと同時に、今後の授業に活用したいとの評価が得られた。
- ・教員の教育評価については、平成27年度の活動報告がなされ、次年度への取り組み課題が明確となった。

2) 教員の研究への支援(FD)

- ・研究支援委員会と協同し、アクションリサーチについての研修会を開催した。

3) 管理・運営への支援(SD)

- ・8月8日に学校法人会計基準に基づき作成される決算書の読み方について、事務職員へのSD研修が開催された。
- ・2月23日に、認証評価の概要と対処方法について、教職員を対象に研修会が開催された。

今後の対応・課題

1) 全体として

- ・H29年度の課題。認証評価に向けた大学としてのFD/SDに対する基本方針と中・長期計画と目標の設定、実施責任体制の明確化。

2) FD委員会として

- ・H28教育の年度の研修を踏まえて、教育の質の向上を目指した教授法の改善を含めたワークショップの開催。

研究支援委員会

構 成 員：宮本 眞巳、深谷 智恵子、新居 富士見、古賀 雄二

事務担当：橋本 昂一郎、平川 弘一

会議開催状況

開催回数：5回

審議事項・活動内容の概要

研究支援の一環として、学長裁量費による研究助成に応募のあった研究計画の審査を行い、28年度は2件が採択された。9月には、究活動の推進及び外部資金獲得の支援のため研修会を実施し、外部講師（日本赤十字看護大学筒井真由美教授）によるアクションリサーチに関する講演会、及び研究担当事務局員による科研費に関する説明会を行った。3月には、学長裁量費による助成、及び科学技術研究費助成事業等による助成を受けた研究の発表を中心に、亀田総合病院と合同で研究交流会を実施し、建設的な意見交換による分野間の交流と共に、大学と病院の連携推進に寄与することができた。

今後の対応・課題

大学内外の研究体制を整備し研究環境を整えるとともに、その資金として科学研究費助成事業等の競争的資金の確保に努めるため、平成25年度に設置した「亀田医療大学総合研究所臨床研究支援室」と連携して、研究者の研究支援及び、競争的資金の獲得等に向けた研究指導を行っている。

科学技術研究費助成事業の申請件数は、平成28年度が申請21件採択2件、平成29年度の申請件数は17件（採択待ち）であったが、今後、全教員が研究代表者として申請することを目指して支援を行っていく。

総合研究所運営委員会

構成員：橋本 裕二、深谷 智恵子、夏目 隆史、片多 史明、松居 宏樹、足立 智孝、佐藤 真由美

事務担当：平川 弘一、橋本 昂一郎

会議開催状況

開催回数 5 回

審議事項・活動内容

1) 客員研究員の登録

客員研究員新規登録申請者 6 名、継続登録希望者 9 名について審査し、全 15 名について登録を推薦することとした。

なお、客員研究員の文科省科研費について、平成 28 年度申請件数 8 件、採択件数 1 件であった。

2) ペーパーオブザイヤーの実施

医療法人鉄蕉会より引継ぎペーパーオブザイヤー（臨床研究論文表彰）の選考を行い、各部門 9 名に対し表彰を実施した。

3) 臨床研究支援室活動

医療法人鉄蕉会及び亀田医療大学職員（医師、看護師、臨床検査技師、ME、薬剤師、理学療法士）に対し以下のような活動を実施した。

- ・研究支援コンサルの実施
- ・FundWriting 講座の実施
- ・看護部への研究支援
- ・セミナー開催への協力
- ・臨床研究カンファレンスへの参加

4) 生命倫理研究室活動

- ・研究倫理相談の実施
- ・倫理講習の実施

今後の対応・課題

1) 研究実績の蓄積について

医療法人鉄蕉会職員の臨床研究支援を通して総合研究所としての実績を蓄積する。

2) 臨床研究支援データベース構築の検討

3) 科研費の獲得

4) ペーパーオブザイヤーの継続

地域連携室運営委員会

構 成 員：新田静江、渡邊八重子、平山香代子、青山美紀子、松丸直美、羽田洋一
事務担当：青木佳子、平川弘一

会議開催状況

開催回数：6回

審議事項・活動内容

1) 映画会「いっぺさ！鴨川シアター」

5回映画会を開催し、参加者総数は673名（90～273名/回）、昼の部が69%、経費は業務用ソフトレンタルなど237,600円、寄付金は163,661円と増加している。従来の広報に加え、大学HPへの掲載と南房総地域の自治体（鴨川、館山、南房総、鋸南）の広報誌と中央公民館への掲載の結果、参加者は漸増、90%以上は鴨川市在住者、主たる情報源は広報誌と人の紹介、肯定的評価が90%である。

2) 市民公開講座

9月3日（土）に「突然人が倒れた！～助けられるか否かはあなたの行動次第～」を演題に、深谷智恵子教授による公開講座を開催し、参加者11名の動機はテーマへの興味が大半であった。

3) 地域の高校との高大連携

長狭高校の医療・福祉コースの授業運営に継続的に関り、高校での出張講義、本学での演習、および病院における体験実習への支援を実施した。

4) 鴨川地域医療連携会議への参加

鴨川地域医療連携会議による活動計画の企画・運営に継続的に関与した成果である一般市民向けの薬剤に関するリーフレットとDVDの活用効果を検証する研究データを収集中である。また、平成28年度から栄養士を新たに加えて「在宅生活で食べること」という課題に取り組んでいる。

5) 地域イベント主催者からの参加要請への対応

10月8日（土）に館山市で開催されたリハケア文化祭で、第1回～第10回までの映画会の報告し、情報発信への活用を再確認した。また、鴨川市青年会議所主催のスカイランタン、鴨川市観光課事業の「前原横渚海岸周辺魅力づくり」への学生・教職員参加を支援した。

今後の対応・課題

1) いっぺさ！鴨川シアター

平成28年度と同様に年間5回の開催を計画している。

2) 市民公開講座

集客方法およびテーマ・開催時期の検討が課題である。

3) 地域の高校との高大連携

長狭高校の医療・福祉コースにおけるプログラムに大きな問題はないが、より魅力的な出張講義や演習の企画が求められるとともに、同校以外の地元の高校との連携促進が課題である。

4) 鴨川地域医療携会議への参加

鴨川地域医療連携会議に引き続き参加し、同会議による活動計画の企画・運営に関与していく。

5) 地域イベント主催者からの参加要請への対応

地域イベント等、外部組織からの参加要請に関する学生・教職員への周知方法や、支援・調整担当者の明確化を図ることが課題である。

6) 鴨川市生涯学習課との連携

鴨川市生涯学習課・教育委員会との協働プログラムである小学生を対象とする「土曜スクール」の6月末～7月上旬開催にむけた具体的企画が求められている。

3. 教職員一覽

教員リスト（平成29年3月31日現在）

教員グループ	職名	氏名	備考
	学長	橋本 裕二	総合研究所 所長 総合研究所運営委員会 委員長
基礎・専門基礎	教授	足立 智孝	学生委員会 委員長 研究倫理審査検討委員会 委員長 総合研究所生命倫理研究室 室長
	准教授	大石 昌也	
基礎看護学	教授	休波 茂子	学長特命補佐（教育担当） 教務・カリキュラム委員会 委員長
	准教授	渡邊 八重子	
	助教	有家 香	
	助教	鷗沢 淳子	
	助手	中川 泰弥	
成人・老年看護学	助手	新川 実穂	
	教授	深谷 智恵子	広報委員会 委員長
	准教授	眞野 響子	FD・SD委員会 委員長
	准教授	佐藤 真由美	
	講師	古賀 雄二	
	講師	青山 美紀子	
	助教	高橋 道明	
	助手	鈴木 玲子	
精神・在宅看護学	助手	宮崎 俊一郎	
	助手	藤村 祥子	
	教授	宮本 眞巳	図書館 館長 図書・情報委員会 委員長 人権委員会 委員長 研究支援委員会 委員長
	教授	新田 静江	生涯学習センター センター長 地域連携室 室長 地域連携室運営委員会 委員長 入試委員会 委員長
	准教授	平山 香代子	臨地実習委員会 委員長
	講師	栗栖 千幸	
	講師	中島 洋一	
ウィメンズヘルス・小児看護学	助教	松丸 直美	
	助手	小坂 玲音	
	教授	恵美須 文枝	副学長 大学院設置準備室 室長 評価委員会 委員長
	教授	吉川 一枝	学長特命補佐（学生担当） 進路支援委員会 委員長
	准教授	久保 幸代	
マクロ看護学	助教	岩谷 香	
	助教	柚山 香世子	
	助教	吉野 妙子	
	教授	原田 光子	国際交流委員会 委員長 保健衛生安全管理委員会 委員長
マクロ看護学	教授	宮本 眞巳	（兼担）
	准教授	平山 香代子	（兼担）
	講師	鈴木 裕子	

職員リスト（平成 29 年 3 月 31 日現在）

所 属	職 名	氏 名	備 考
	事務局長	江羅 茂	
管理部	部 長	同上	兼務
管理部 総務課	課 長	同上	兼務
	係 長	羽田 洋一	広報・管理担当
	係長代理	藤枝 悦子	秘書担当
		齊藤 可奈子	人事担当
		橋本 昂一郎	人事・研究担当
		平川 弘一	庶務・研究担当
		小畑 翼	総務担当
管理部 学務課	課 長	江羅 茂	兼務
	係 長	碓井 豊一	教務担当
	係長代理	小原 美乃里	広報担当
	係長代理	宮本 聖子	入試担当
		安田 紫音	教務担当
		山田 純子	学生担当
	係長代理	立野 幸子	図書館司書
財務部	部 長	堀 強	
財務部 財務課	課 長	同上	兼務
	課長補佐	間宮 庄治	施設担当
	課長補佐	庄司 良幸	予算・執行・決算担当
		久古 博之	予算・執行・決算担当

学校法人 鉄蕉館
2016（平成 28）年度
亀田医療大学年報
平成 30 年 3 月 2 日発行

亀田医療大学（編集・発行）
〒296 - 0001 千葉県鴨川市横渚 462 番地
TEL : 04 - 7099 - 1211（代）
FAX : 04 - 7099 - 1327
<http://www.kameda.ac.jp/>